

# 令和元年度 事業報告



## 千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



本学は、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探究を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」を大学の目標としています。

本学は、2016年に「10年後における千葉科学大学のあるべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026（中期目標を含む）」を設定しました。このビジョンは【Ⅰ】教育改革、【Ⅱ】研究推進、【Ⅲ】学外連携・地域貢献、【Ⅳ】総合的學生支援、【Ⅴ】大学運営と内部質保証の5項目より構成されており、このビジョンの実現に向けて策定した中期計画に基づいて事業計画を推し進めています。3年目となる今年度の事業方針と重点事項を以下のように設定しました。

**Ⅰ. 教育改革** 初年次教育においては、一般教養教員と協同して組織的展開を進め、学修行動の改善に取り組みます。リメディアル教育では、より効果的なプログラムを策定するほか、昨年度に策定した「アセスメントポリシー」に基づき3つのポリシーとの整合性を評価します。大学院教育においては、引き続き教育プログラムの改善に取り組むとともに、社会人の受け入れ体制を整備していきます。

**Ⅱ. 研究推進** 各学部において科研費等の競争的資金申請を推進するほか、本学が重点研究対象に掲げている「好適環境水等の新技術を応用したブランディング事業」に関わる研究を飛躍的に発展させるよう取り組んでいきます。

**Ⅲ. 学外連携・地域貢献** 学外連携プロジェクトとして、社会人（動物看護師等）を対象とした履修証明プログラムや外部機関と共催する公開講座などを開講します。また、5年間で培ったCOC事業（銚子学必修、地域との連携事業）を継続して行い、最終年度を迎える「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」では、人材育成・雇用に関わる県内就職率目標等の達成を目指します。

**Ⅳ. 総合的學生支援** 経済的に修学困難な学生に対する授業料減免制度を整備し、離籍率の改善を図ります。また、公務員試験対策や国家試験対策をさらに充実させます。そのほか、課外活動活性化のための支援や留学生支援を充実させるとともに、「競争力のあるキャンパスづくり」の基本計画に基づいたキャンパス内の整備に引き続き取り組んでいきます。

**Ⅴ. 大学運営と内部質保証** 教職員の人材育成については、学部・研究科ごとにFD委員会を設置し、学部・研究科単位でのFD活動を推進させます。教員も対象としたSD活動では、業務に直結する専門性のあるSD研修を計画・実施、また、全学部での教員の自己点検制度の導入に向けて検討します。学内の自己点検・評価体制においては、これまでの経験を踏まえ、「内部質保証のための全学的な方針及び手続」を新たに定め、内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を構築します。

千葉科学大学 学長 木曾 功

## 【 I 】 教育改革

教育の質保証を目指した教学マネジメントを適切に機能させ、学生の多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図り、それぞれの専門分野において、自分の進路に対する明確な目的を持った、安全・安心な社会の構築に寄与する優れた人材を育成することを目指します。

### 1. 大学の教育改革に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 初年次教育の組織的展開	<b>【 I-1-1 】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教養教員を初年次教育強化ワーキンググループ（各学科アカデミックアドバイザー、教務課、学習支援センター）へ取り込み、協同してより効果的な初年次教育を実現する。</li> <li>・学修行動アンケートを用いた学修行動改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より一般教養教員を初年次教育強化ワーキンググループのメンバーに加え、効果的な初年次教育の実現に向けたワーキンググループの活動を継続して行った。</li> <li>・薬学部、看護学部、危機管理学部保健医療学科、動物危機管理学科において、学修行動アンケート結果に基づき、春学期成績との関連などについて解析した。一方、学修行動の変容に結びつく明確なエビデンスは得られていない。</li> </ul>
② 入学前・リメディアル教育の充実	<b>【 I-1-2 】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度入学予定者全員の入学前教育を初年次教育強化ワーキンググループで計画し、実施する。</li> <li>・令和元年度スタートアップセミナー（春学期、秋学期）を実施するとともに学生アンケートを実施し、次年度への改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育強化ワーキンググループで次年度に向けた入学前教育実施計画を策定し、計画どおり実施した。</li> <li>・スタートアップセミナー春学期を薬学系と看護学系の学生を対象として2クラスで実施した。またスタートアップセミナー秋学期は看護学系の学生に対して実施した。アンケート結果に基づいて講義内容の再検討を行い、改善点などを掌握した。</li> </ul>
③ 実効性のある教学マネジメントの推進	<b>【 I-1-3 】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントポリシーに基づいて、3つのポリシー（特にアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー）のアセスメントを実施し、ポリシーとの整合性を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントポリシー策定初年度であったため、まずは機関レベルのアセスメントについて指標を絞り、試行的に実施した。</li> </ul>

### 2. 大学院の教育改革に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
------	-----------	-----------

<p>① 大学院教育の充実</p>	<p><b>【I-2-1】</b></p> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学専攻と薬科学専攻における現在の大学院教育について、全面的に点検し自己評価を実施する。特に、薬科学専攻に関しては、生命薬科学科の募集停止に伴い、存続を含めて研究科で議論と検討を実施する。</li> </ul> <p><b>【危機管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのポリシーとアセスメントポリシーの確定を行い、運用する。</li> <li>・大学院で取得できる資格を検討する。</li> </ul> <p><b>【看護学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者確保：①「社会人学び直し講座」の6月開催を継続して行っていく。昨年度のアンケート結果をもとに参加しやすい環境を整える。②入試では、社会人特別選抜を継続して実施する。③見やすいパンフレットを作成する。</li> <li>・環境適応へのサポート：①入学前にオリエンテーションを実施して、大学院の概要や就業と学業の両立のイメージがつくような支援をする。②大学院設置基準第14条における教育方法の特例により、社会人に配慮した時間割の作成を継続する。</li> </ul>	<p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院教育に関する自己評価の実施及び薬科学専攻の存続に関しては、議論・検討を進めてきたが、結論に至らなかったため、次年度においても継続して行う。</li> </ul> <p><b>【危機管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーの改訂を行い、アセスメントポリシーについては、原案を作成した。</li> <li>・大学院で取得できる資格については、様々な分野からの資格を取捨選択し検討してきたが、結論に至らなかったため、次年度において実現可能な資格に絞り、さらなる検討を加える。</li> </ul> <p><b>【看護学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者確保：①「社会人学び直し講座」を3回（7月9日、7月30日、8月6日）に渡って実施した。②9月に社会人特別選抜を実施し、二次募集を3月に実施するよう準備を進めた。③アカデミックで映える内容（院生になってから学んだこと、院生の生活、抱負などの体験談を掲載）のカラー刷りパンフレットを作成し、100以上の施設に送付した。</li> <li>・環境適応へのサポート：①入学前にオリエンテーションを実施した。②年間通じて、勤務体制と講師の調整を図り、社会人に配慮した時間割を作成した結果、院生全員が授業に支障なく参加できた。</li> </ul>
-------------------	--	---

<p>② 社会人の受け入れ体制の整備</p>	<p><b>【I-2-2】</b></p> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の受け入れについて、製薬企業、病院を含む医療機関について小規模な聞き取り調査を実施して、社会人の需要の有無について検討する。需要が見込まれた場合は、社会人の受け入れ体制について議論する。</li> </ul> <p><b>【危機管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合危機管理学コースのカリキュラム改定を行う。</li> <li>・医療マネジメントコースの充実を図り、入学生の増加に努める。</li> </ul> <p><b>【看護学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教育プログラムの適正化：共通科目がすべて終了した時点で、院生にヒアリングを行い、内容を点検する。</li> <li>・個々の学修状況の把握と効果的な学びを可能にする指導：①学修内容が学生の背景や修了後のニーズと適合するような科目選択を指導する。②教員（非常勤講師）や学生に必要時ヒアリングを行い学修状況の把握に努める。③高度実践看護師教育課程を開講する。</li> </ul>	<p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学卒業生に対し大学院社会人コースについてアンケートを実施した結果、関心や東京での受講など要望もあるため、次年度においても引き続き、実現性について検討を重ねる。</li> </ul> <p><b>【危機管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合危機管理学コースにおけるカリキュラム改定について検討した結果、今年度は改定に至らなかったが、コースの存続も含め、次年度も引き続き検討を重ねる。</li> <li>・医療マネジメントコースについて、eラーニングによる教育を開始した。次年度の募集については、パンフレット、ホームページでの広報に加え、職能団体の協力を得て大学院の紹介を行った。</li> </ul> <p><b>【看護学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教育プログラムの適正化：授業終了時に院生に授業評価を依頼し、共通科目がすべて終了した時点（12月）で、内容について点検した。</li> <li>・個々の学修状況の把握と効果的な学びを可能にする指導：①学修内容が学生の背景や修了後のニーズと適合するような科目選択について、入学前後のオリエンテーション時に説明した。②学修状況の把握について、教員（非常勤講師）には科目終了時にヒアリングを行い、学生には授業評価アンケートを通じて把握に努めている。③高度実践看護師教育課程について、4月より入学した院生2名に対し開講した。</li> </ul>
------------------------	--	---

## 【Ⅱ】研究推進

外部資金獲得のためのサポート体制などの環境が整備され、多くの教員が研究活動を推進させて外部資金を積極的に獲得するとともに、本学独自のいくつかの研究分野において、国内外から本学が重要な研究拠点になることを目指します。

### 1. 研究活動の推進・充実に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 研究活動に係る補助金（科研費等）の積極的な獲得	<p><b>【Ⅱ-1-1】</b></p> <p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究補助金が獲得できるように、科学研究費を受領している教員を中心に説明会を実施する。また、学術論文の執筆が少ない教員を対象に、研究活動を充実させるように積極的に働きかける。</li> </ul> <p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が何等かの研究活動に係る補助金を申請するよう学部として推進する。</li> </ul> <p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内科研費は元より、科研を含めた外部資金獲得への指導を年度初めの自己点検評価面接時に実施し、年度末にその成果報告を受けける体制を継続する。</li> </ul>	<p><b>【薬学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費取得に向けた説明会について、今年度は大学主催の説明会への参加とし、次年度以降学部独自の説明会を検討する。また、学術論文の執筆が少ない教員への働きかけは、10月以降の教員面談で実施した。</li> </ul> <p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科研費をはじめ、様々な外部資金獲得のための啓発を行うとともに教授会においても、科研費への積極的な申請を促した。</li> </ul> <p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の自己点検評価面接時に確認した。</li> </ul>
② 外部資金獲得のための環境整備	<p><b>【Ⅱ-1-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究支援を紹介するホームページの整備を行い、補助金公募情報の活用を工夫する。</li> <li>産業界フォーラム等へ積極的に参加し、情報収集を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学ホームページ上に本学教員の研究情報を掲載するとともに、大学に届いた共同研究、受託研究等の外部資金募集情報を適宜掲載した（133件）。</li> <li>9月28日に開催した本学 CIS フォーラムにおいては、地元企業を中心に一般参加者246名（学内参加者含む）が来場し、意見交換により情報収集を行った。</li> </ul>

### 2. 本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 「好適環境水」等の新技術	<b>【Ⅱ-2-1】</b>	

<p>を応用したブランディング事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規飼育水を用いた大学発ブランド水産種の陸上養殖検証実験を実施する。</li> <li>・鮮魚・活魚の安心安全・品質向上を目指した輸送・加工技術開発に関する結果解析を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規飼育水を用いた大学発ブランド水産種の陸上養殖検証実験について、危機管理学部・薬学部教員（12名）を中心に行った。</li> <li>・鮮魚・活魚の安心安全・品質向上を目指した輸送・加工技術開発に関する結果解析について、薬学部教員（4名）を中心に行った。</li> </ul>
--------------------------	---	---

### 【Ⅲ】学外連携・地域貢献

大学が地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核となり、地場産業の振興や人材の育成に寄与し、地域活性の中核を担う存在になることを目指します。

#### 1. 積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
—	<p>【Ⅲ-1-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の実績を踏まえ、県内及び本学近隣地域を主な対象とした外部機関と共催する公開講座等を開催する。</li> <li>・前年より社会人が受講しやすいようにプログラムを見直し、引き続き、社会人の動物看護師を対象とした履修証明プログラムを開講する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の継続性を考慮して前年度に引き続き、千葉県立中央博物館、旭農業高校、イオンペット（株）、千葉市科学館と共催した公開講座を計4回実施し、多くの参加があった。</li> <li>・社会人の動物看護師を対象としたeラーニングを中心とする履修証明プログラム「災害時獣医療支援人材養成プログラム」について定員を超える16名の受講者があり、スクーリングに参加できなかった3名を除く13名に履修証明書及び資格認定証を交付した。</li> </ul>

#### 2. 地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>① 地（知）の拠点整備事業（COC）の実施</p>	<p>【Ⅲ-2-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年間で培ったCOC事業（銚子学必修、まち歩き、地域の方との産学金官連携事業等々）を、包括連携協定を結んでいる各団体と連携を密にし、成果を積み上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携の成果のひとつとして、COC事業にて包括連携協定を締結しているJAちばみどりより、研究資材の提供を受けた。また、銚子市推進の風力発電での水産資源等への影響について、学術的観点からの協力要請を受ける等、連携成果が出始めている。</li> </ul>

	・企業との共同商品開発や技術協働件数を最低2件実施する。	・共同研究、受託研究件数は一定数伸びてはいるが、共同商品開発、技術協働には至っていない。
<b>3. 「地育・地就」実現のための環境整備に関する目標</b>		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施	<b>【Ⅲ-3-1】</b> ・COC+会議やシンポジウムへ参加し、学生のポスター発表を行う。  ・COC+事業における事業協働地域への就職率3%アップを目指す。	・11月29日に開催されたCOC+会議及び合同シンポジウムに教職員3名が参加し、4件のポスター発表を行った。  ・卒業予定者にCOC+事業の事業協働地域である千葉県への就職支援を実施し、看護学部を中心に凡そ25%の卒業生が就職した。

#### 【IV】 総合的學生支援

本学の学生に対して、学習面・生活面・就職面・経済面などのあらゆる面において、強力な総合支援体制を整備・充実させ、質の高い教育支援環境を提供することを目指します。

#### 2. 経済支援制度の整備・充実に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 効果的な経済的支援策（奨学金制度等）の整備・充実	<b>【IV-2-1】</b> ・経済的に修学困難な学生に対する授業料減免に係る規程を整備し、離籍率を改善する。	・経済的に修学困難な学生に対する授業料減免に係る規程を整備し、1名につき20万円、5名の対象者に対し、合計100万円の支援を行った。

#### 3. 就職支援体制の強化に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 戦略的就職支援策の整備	<b>【IV-3-1】</b> ・全学就職内定率97%を目指す。  ・専門業者のガイダンスを各学部で実施する。 ・採用担当者との説明会等を全学部	・就職支援策の一環として、筆記試験対策の職業能力検査を実施し、1年生151人、2年生41人、3年生135人、計327人が参加した。また、公務員対策講座のハイグレード講座（前・後期）及びベーシック講座を実施した。 ・就職ガイダンスは企業情報特論で秋学期に実施した。 ・学内合同業界研究会を11月15日、16日に開催し、87企業と3年生

	で実施する。	中心に 177 人の学生が参加した。 また、薬学部 4 年生を対象に、2 月 7 日に薬剤師仕事研究会を開催した。
② 公務員試験対策の強化・合格数増加	<p>【IV-3-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員採用試験合格者 70 名を目指す（行政・専門職 12 名）。</li> <li>・面接対策講座（個人・集団）を開催する。</li> <li>・小論文対策講座を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員採用試験合格者は 76 名となり、目標を上回る結果となった。また、国家公務員一般職や東京都特別区 I 類など、上級行政職の合格者もあり、公務員試験対策強化の取組においても好結果が得られた。</li> <li>・外部講師による面接対策講座を実施した。</li> <li>・公務員採用試験を受験する学生を対象に試験対策としてハイグレード・プラス講座（14 回）を開催したほか、面接・小論文対策講座も実施した。</li> </ul>
③ 国家試験対策の充実・合格数増加	<p>【IV-3-3】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学部の国家試験対策に関しては、毎年前年度の結果を点検して新たな対策を実施しているので、今年度も前年度の結果に基づいて対策を実施する。また、学生の質や考え方も毎年変化しているので、その学年に最も適切な国家試験対策を行う。</li> </ul> <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的な勉学促進のため学生国家試験委員を選出する。</li> <li>・国家試験全国平均以上の合格率を目指し、国家試験補習講義を充実させる。</li> </ul>	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップ模試を含めた各試験結果を利用し、アカデミックアドバイザーによる現状分析を行い、国家試験対策委員会で検討、議論、改善方針を策定した。専任教員の講義担当範囲、学生の学修進捗状況を踏まえ、予備校講師による講義を実施した。また、学生の個別目標設定を行い試験ごとに個人カルテを配布し、必要に応じて学生指導を実施した。</li> </ul> <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースより学生国家試験委員を選出し、情報共有等コミュニケーションを密に行い、学生の自発的な勉学促進を図った。</li> <li>・定期的に模擬試験と個人面談を行い、結果の分析から学生一人ひとりの不得意科目を特定し、コース毎に全科目の補習授業を実施し</li> </ul>



	<p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策を1年次より計画的に実施する。</li> <li>・1・2期生の4年間の国家試験対策の評価を行い、3期生以降の国家試験対策に反映する。</li> <li>・4年次生のうち国家試験対策の遅れている学生への計画的な早期対応を行う。</li> </ul>	<p>た。</p> <p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の国家試験対策担当教員が年間計画を策定し、1年次から計画的に国家試験対策を実施した。</li> <li>・1期生2期生の国家試験対策の評価結果を3期生以降の対策計画に反映させ実施した。</li> <li>・対策が遅れている4年生を夏期（8月～9月）、秋期（11月～12月）、冬期（1月～2月）の期間に抽出し、個別指導を行う教員を配置し、さらには少人数対策講座（業者）を実施した。</li> </ul>
--	---	--

#### 4. 学生生活の支援対策の整備に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実	<p><b>【IV-4-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生支援規程に則り、障がいのある学生に対する健康支援を充実させる。</li> <li>・受動喫煙防止のための敷地内禁煙について啓発する。</li> <li>・東京 2020 オリンピック支援学生に対する健康管理への教育計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生支援規程に則り、障がいのある学生に対する健康支援計画を学生個々に策定した。</li> <li>・秋学期学生オリエンテーションにおいて敷地内禁煙にむけての資料を配布し、教員による指導を行ったほか、学生・教職員にアンケートを実施し、結果から今後の課題が得られた。</li> <li>・東京 2020 オリンピック支援学生に対する健康管理の指導内容書を作成し、ポータルサイトにて学内周知した。</li> </ul>
② 課外活動活性化のための積極的な支援	<p><b>【IV-4-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学祭において、教職員も学生と協力して協賛金の募集やポスター掲示の依頼を行う。</li> <li>・本学を知ってもらうきっかけの一つとして、大学祭期間中に使用できる割引券をオープンキャンパスで来学した高校生に配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に対し、大学祭の協賛金やポスター掲示の協力を呼び掛け、ポスター掲示の協力を得た。協賛金については、新規開拓中である。</li> <li>・オープンキャンパスにて大学祭で使用できる割引券を配布した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度に向けて学友会費を入学生全員から徴収する制度に変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度学友会費を入学者全員から徴収する制度に変更する手続きを経て募集要項等に反映させた。</li> </ul>
③ 学生寮の完備・充実	<p>【IV-4-3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女子寮については、学生の生活態度を正すため、寮生を対象としたオリエンテーションを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションの実施だけでなく、定期的に女性職員が女子寮を訪問し、適宜指導を行った。</li> </ul>
④ 留学生支援の強化	<p>【IV-4-4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寮生活の満足度を上げるため、アンケート調査を行い、結果を集計・分析して、問題点を改善する。</li> <li>成績不振の学生について、教員から国際交流室へ、指導の協力依頼があった場合は、教員と情報交換、情報共有を行い、必要に応じ、学生指導の補助を行う。</li> <li>日本語能力がN2に達していない学生に対しては、学習支援センターが行う日本語講座への出席・参加を促す。</li> <li>大学や地域のコミュニティの一員であることを自覚させるために新入留学生と先輩留学生及び日本人学生と銚子市民との交流の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生寮アンケート及び留学生生活アンケートを9月に実施し、結果分析を11月に実施した。問題点の改善として、学生寮に必要な備品を揃えた。</li> <li>成績不振学生に対して、担当チューターへ成績表とともに面談依頼を行い、面談を実施した。</li> <li>日本語能力がN2に達していない学生への指導については、学習支援センターと打合せを行い、学生指導を行った。</li> <li>日本人学生と銚子市民との交流については、銚子市国際交流協会歓迎会（6月2日）に参加した。また一日研修（11月8日）を実施した。</li> </ul>
⑤ キャンパス整備	<p>【IV-4-5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マリーナキャンパス中庭の舗装を行う。</li> <li>男女トイレにアメニティグッズを導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度予定していたマリーナキャンパスの中庭の舗装を夏季休暇中に実施した。残りの部分については令和2年度に実施する予定である。</li> <li>本部キャンパス及びマリーナキャンパス講義棟の男女トイレにアメニティグッズを、図書館にはアロマウッドを設置し、憩いの空間を演出している。いずれも学生から好評を得ている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の満足度を高めるため、C's マリーナをはじめ学生食堂の昼食メニュー充実について、関連業者と意見交換する（食堂委員会）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C's マリーナについては、グランドオープン前に食堂委員会を開催し、学生と教職員、業者が意見交換を行い、メニューに反映させた。本部キャンパス食堂についても、適宜、業者へ要望を伝えるなど、昼食メニューを充実させるよう進めている。</li> </ul>
--	---	--

### 【V】大学運営と内部質保証

大学のマネジメント体制を充実・強化し、優秀な学生の確保と教職員に対する計画的で効果的な人材確保・育成を実践することを目指します。また、PDCA サイクルが適正に機能する実効性のある自己点検評価体制を整備して内部質保証システムの確立を目指します。

#### 1. 大学のマネジメント（運営管理）体制の充実・強化に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 意思決定プロセスの整備・迅速化	<b>【V-1-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合した部署の意思決定プロセスを見直し、迅速に動く体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部組織の変更を計画したが、人事施策等の要因で見送りとなった。次年度に向けて更に事務組織の再編、スリム化を計画していく。</li> </ul>
② 教学マネジメント体制の充実	<b>【V-1-2】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教養教員を学習支援センターに兼任とし、初年次教育強化ワーキンググループへ組織化して、各学科の課題解決のためのより効果的な初年次教育体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より一般教養教員も初年次教育強化ワーキンググループのメンバーとしてこの取り組みに参加し、初年次教育体制を構築した。</li> </ul>
③ 大学事務業務の効率化	<b>【V-1-3】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務効率をアップさせることを目的に、各部署の内容を全職員に把握させ、職員同士、忙しい時には助け合いができる体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未実施のため、次年度に各部署の業務内容情報交換の研修を行うように準備を進めていく。</li> </ul>
④ 危機管理体制の整備・運用	<b>【V-1-4】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年次計画に沿って飲料水・非常用食料等の備蓄等の非常時への対応を行う。</li> <li>・地震・津波避難訓練、防災訓練を通して、教職員に非常時における</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時の対応として飲料水・非常用食料等の備蓄等の購入は次年度に行うこととなった。</li> <li>・令和元年 10 月 25 日（金）14:40 から地震・津波避難訓練（荒天の</li> </ul>

	対応を周知させる。	ため中止)、令和元年 12 月 10 日 (火) 12:00 から総合防災訓練を実施し、教職員 179 名が避難した。
⑤ 適正な学部学科構想の検討	<b>【V-1-5】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内の 18 歳人口の減少に対応し、外国人留学生の受入拡充、大学院の社会人を対象とした教育課程の展開を行う。</li> <li>平成 30 年度に設置した危機管理学部危機管理学科「ビジネス・経営管理コース」の充実を図る。</li> <li>危機管理学部保健医療学科において、臨床検査技師、臨床工学技士のダブルライセンス取得可能に対応した教育課程の変更を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理学部危機管理学科の教育課程改定は学生ニーズ等に応じるため、令和 3 年度にカリキュラム改定を行うこととした。また、全学的な留学生委員会を設置し、留学生の日本語能力向上に向けたサポート体制を構築した。</li> <li>危機管理学部保健医療学科におけるダブルライセンス取得に対応するため教育課程改定を行い、教育課程変更手続きを行った。</li> </ul>

## 2. 戦略的広報対策に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 学生募集のための効果的な広報対策	<b>【V-2-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新パンフレットを 4 月に完成させ、担当者配置都道府県の高校数に対する配荷率を 5 割以上とする。</li> <li>各学科リーフレットを入試広報室で作成、タイムリーに適所に配布する。</li> <li>留学生マーケットへの進攻と受け入れ体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 月に完成した 2020 年度版パンフレットを全国全高校に一斉発送し、配荷率は 100% を達成した。2021 年度版も同時期納品を予定し準備を進めている。</li> <li>学科ごとの受験生の傾向を踏まえ、各学科リーフレットを作成し、高校や説明会、オープンキャンパス等で配布した。</li> <li>入試広報室と国際交流室が協力し、国内日本語学校の開拓を進め、見学者等、目標数値を上回る結果を得られた。さらに、日本語学校を対象とする指定校制度を新設した。</li> </ul>
② 一般広報対策	<b>【V-2-2】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当者を決めて、毎月ホームページのチェック作業を実施する。</li> <li>News 2u への配信を 1 ヶ月 3 本以上アップする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ担当者を決めて逐次更新を実施した。</li> <li>ネット PR サービス「News 2u」へ、月 3 本以上のアップロードを目標としが、今年度は 18 件のアップロードとなった。</li> </ul>

③ 高大連携事業の推進・拡充	<b>【V-2-3】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携推進協議会による「高大連携推進教育研究交流会」や「懇親会」で参加者（高校教諭と本学教職員等）との交流を緊密にし、継続的な連携（出張講義等）に繋がる取り組みを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携推進協議会教育研究交流会（9月1日 14時30分～16時30分）を開催した（参加者 高校側：90名、大学側：14名）。なお、懇親会は、会長・副会長が協議し諸事情を考慮して、今年度は開催しなかった。また、出張講義は計29校で行った。</li> </ul>
----------------	--	--

### 3. 入学者の確保・退学者等の減少に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 優秀な学生の確保・入学者数の増加	<b>【V-3-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数を増加させることを目的に、入学者選抜方法を見直す。</li> <li>・優秀な学生を確保することを目的に、入試特待生制度に関する広報活動を適宜実施する。</li> <li>・ホームページを介して、ブランド力向上に繋がる情報を適宜発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度入学者選抜方法等について見直し、決定した内容を9月30日にホームページで予告を行った。</li> <li>・入試特待生制度に関するチラシを作成し、適宜配布するとともにホームページを介して情報発信した。これらの効果などもあり、入試特待生合格者は前年度と比べ2倍増となっている。</li> <li>・大学 Facebook を通じて、教員・学生の活動等を適宜発信した。次年度は各学科に学生広報スタッフを配置するなど、投稿頻度を高めるとともに、学生にとって魅力的な情報を発信していく。</li> </ul>
② 退学者減少のための対応整備	<b>【V-3-2】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター並びに事務職員が協力して、退学予備軍となる学生への積極的介入を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目を2回欠席した学生に対して、教務課より出席を促すよう電話連絡を行った。また、教務課とチューターが連携して当該学生との面談等の適切な対応を行った。</li> </ul>

### 4. 教職員の人材育成・確保に関する目標

中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 教員対象の組織的FD活動による人材育成	<b>【V-4-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する学生の授業アンケート、並びに意見聴取を実施し、授業改善に役立てる仕組みを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生授業改善アンケートを実施し、アンケート結果の分析を行い、各学部・学科へデータを提供</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・研究科ごとの FD 委員会を設置し、学部・研究科単位の FD 活動を行う。</li> </ul>	<p>するとともにアセスメントを実施した。また、秋学期においてはアンケート内容の見直しを行い実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善のための学生を交えた FD を実施した。また、授業改善に限らず広く大学の問題点を解決するため、学生を交えた意見交換会を実施し、聴取した意見に対する改善策を公表した。</li> <li>・各学部・研究科ごとの FD 委員会を設置し、それぞれ FD 活動を行った。</li> </ul>
<p>③ 教職員の自己点検制度の確立・運用</p>	<p>【V-4-3】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに試験的に実施した教員の自己点検・評価を点検し、適切な自己点検・評価が行われるように内容を改めて実施する。さらに、本評価の妥当性について点検・評価を行う。</li> </ul> <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度検討した教員評価制度を基に自己点検・評価を実施する。</li> </ul> <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度より行っている自己点検・評価を継続して実施する。</li> </ul>	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に教員評価委員会を設置し、評価項目、実施方法策定、学部教員への説明を教授会で行い、目標設定、自己点検・評価を実施した後、学部長・学科長と面談を行った。評価体制が整ったため、今年度の問題点を踏まえ、引き続き、次年度も実施する。</li> </ul> <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に学部及び学科の単年度目標に沿うように①教育・学生支援分野②研究分野③地域貢献・社会活動④管理運営活動の4項目について、教員各自が目標を設定した。それを基に学科長が面談を行い、具体的な目標とそれぞれのウエイトについて確認を行った。年度末、設定した目標に基づいて自己点検・評価を行い、学部長・学科長で学科目標達成度と自己点検・評価結果の評価を行った。</li> </ul> <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度開始後、各領域長を中心に面談を行った。面談に先立ち、今年度の学部の目標を4月の学部教授会にて確認し、当該目標を踏</li> </ul>

		まえ、各自が教育・研究・学内運営・地域貢献に関する具体的な行動目標と割合を話し合った。教授においては、学部長との面談にて確認した。年度末、設定した目標に基づいて自己点検・評価を行った。
④ 職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成	<b>【V-4-4】</b> ・業務に直結する専門性のあるSD研修会を計画し、実施する。	・学園全体の人材育成プログラム等をSD研修として積極的に取り入れて大学職員としての専門知識を学ばせた。次年度に向けても、より専門的なSD研修会を計画・実施していく。
<b>5. 内部質保証システムの構築・運用に関する目標</b>		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
① 実効性のある自己点検評価体制の整備・運用	<b>【V-5-1】</b> ・これまでの自己点検評価の経験を踏まえて、内部質保証のための全学的な方針及び手続を新たに定めて明示する。 ・定めた方針等に基づいて現状の自己点検評価体制を見直し、内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を構築する。	・公表されている他大学の内部質保証に関する全学的な方針及び手続きを調査・抽出し、本学における方針及び手続きに関する原案のための参考資料を作成した。これらを基に、本学における全学的な方針案及び手続き案を作成する予定であったが、一部評価体制の見直しが先行されたため、策定するに至らなかった。

## 主な行事予定

4月3日	新入生オリエンテーション
4月4日、5日	新入生一泊研修
4月6日	在学生春学期オリエンテーション
4月7日	入学宣誓式
5月12日	第1回大学進学相談会
5月19日	看護の日
5月25日	看護実践連携研究会
6月16日	第2回オープンキャンパス
7月20日、21日	第3回オープンキャンパス
7月29日～8月10日	春学期定期試験
8月3日～8月8日	教員免許状更新講習会
8月24日	第4回オープンキャンパス
9月7日	教育進路懇談会（地方）
9月14日	教育進路懇談会（本学） 第2回大学進学相談会
9月17日	在学生秋学期オリエンテーション
9月28日	CIS フォーラム 2019
9月29日	第5回オープンキャンパス
10月7日	就職懇談会（東京）
10月25日	地震・津波避難訓練
10月26日	第3回大学進学相談会
11月9日	第4回大学進学相談会
11月9日、10日	青澄祭（大学祭）
11月23日	看護実践連携研究会
12月7日	第1回合格者見学会 第5回大学進学相談会
12月11日	総合防災訓練
1月20日～2月1日	秋学期定期試験
2月3日	看護就職ガイダンス
2月4日、5日	薬学科就職ガイダンス
2月7日	薬剤師の仕事研究会
2月15日	第2回合格者見学会 第6回大学進学相談会
3月5日	進級・卒業判定会議
3月25日	学位記授与式（中止）



## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(令和元年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員		在学者数			
			留学生	社会人			留学生	社会人		
大学院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	0	12	2	1	0	
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	0	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	3	0	0	20	4	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	4	0	4	9	7	0	7	
	危機管理学研究科（修士）	5	4	1	1	10	8	1	3	
	看護学研究科（修士）	5	6	0	6	10	9	0	8	
大学院 計		31	18	1	11	76	30	2	18	
学部	薬学部	薬学科（6年制）	120	61	12	0	720	527	79	1
		生命薬科学科 <small>(募集停止)</small>	—	—	—	—	115	54	3	0
		計	120	61	12	0	835	581	82	1
	危機管理部	危機管理学科	120	70	13	0	420	272	28	0
		環境危機管理学科 <small>(募集停止)</small>	—	—	—	—	120	38	1	0
		保健医療学科	80	58	0	0	320	242	1	0
		航空技術危機管理学科	40	15	0	0	160	48	6	0
		動物危機管理学科	60	29	1	0	180	86	1	0
	計		300	172	14	0	1,200	686	37	0
	看護学部	看護学科	80	81	0	0	320	310	0	0
		計	80	81	0	0	320	310	0	0
	学部 計		500	314	26	0	2,355	1,577	119	1
<b>総合計</b>		<b>531</b>	<b>332</b>	<b>27</b>	<b>11</b>	<b>2,431</b>	<b>1,607</b>	<b>121</b>	<b>19</b>	
留学生別科		40	0	0	0	40	11	11	0	

※学部における社会人は社会人入試にて入学した学生数

(単位：人)

### ■教職員数

(令和元年5月1日現在)

学長	副学長	教授*	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	3	68	24	20	9	3	1	129	61

※大学院教授1名含む

※学長・副学長除く

(単位：人)

## ■卒業者数等一覧

(令和元年度)

区分	修了者・卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	7	0	0	0%	1	1	1	3
学部	336	301	271	90%	9	57	38	128

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (令和2年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	ウエルシアホールディングス、クオール、信州大学医学部附属病院、小山記念病院、東京ガス、東京都特別区職員、東京消防庁、川崎市消防局、横浜市消防局、千葉市消防局、仙台市消防局、警視庁、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、茨城県警察本部、自衛隊、ジェットスター・ジャパン、旭中央病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院他
-------	--

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金		2,750,600	2,498,707
	経常費等補助金		361,198	252,740
	その他収入		152,286	147,034
	計		3,264,084	2,898,481
	教育活動 支出	人件費		2,388,634
教育研究経費			1,279,614	1,204,915
管理経費			445,432	395,705
その他支出			4,981	3,277
	計		4,118,661	3,930,008
教育活動収支差額			△ 854,577	△ 1,031,527
教活外	収入	受取利息等	5	4
	支出	借入金利息等	3,563	3,026
	教育活動収支差額		△ 3,558	△ 3,022
経常収支差額			△ 858,135	△ 1,034,549
特別	収入	資産売却差額等	2,729	1,269
	支出	資産処分差額等	2,801	4,420
特別収支差額			△ 72	△ 3,151
基本金組入前収支差額			△ 858,207	△ 1,037,700
基本金組入額合計			△ 121,575	△ 272,255
当年度収支差額			△ 979,782	△ 1,309,955

### ■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
マリーナキャンパス中庭舗装工事2019年度分	9,200
次世代型陸上養殖施設井戸掘削工事	1,458
次世代型陸上養殖施設コンクリート舗装工事	1,890
危機管理学部・実験棟空調改修工事(1階)	171,148
外部駐車場用投光器設置工事	940